みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
3100番
編集兼発行人　遠田紀生

闘いの成果を確認しさらに前進しよう！

監視・要求のかまえを強めよう！

遺族・被災者問題の妥結

―第四回中央委員会で確認―

八月一日より続けられた本社座り込み闘争は、山元交渉からひいては中央交渉へとつづく、九月十五日組合代表とともに遺族・被災者家族代表二〇名も上京し、山元の遺族・主婦会の座り込みと相まって、三池労組の強力な労働時間スト等影響に、炭労も全力をあげて交渉にのぞんだ。その結果九月二五日、一応了解点に達し、第四回中央委員会（九月二七日）で「妥結内容」（九月二八日付みいけ号外）について報告し確認した。

闘いの中から必ず発展する

八月一日、遺族の皆さんは「なぜ私たちに期末手当を二〇％しか払わないのか。機発当日同じ坑内にいて、生死違った者には一〇〇％支払い、差別取扱いするのはおかしい」と会社に抗議し、満足な回答を得られなかったことによって、ついに座り込みがはじまった。

当初は遺族の皆さんの支援、激励という立場で、組合員も主婦会もとらえて、行動を開始した。その中から、これは遺族の問題を支援するということではなく、三川鉱大変災に対する会社側の責任態度に対する闘いでなければならないということに、闘いの質が転嫁した。

この問題は全組合員、全主婦会員の問題として闘争の位置づけを行ない、遺族・被災者主婦会一体となった長期の座り込み態勢を八月二十五日、本部構内で決起大会で意志統一を確立し、現場では生産点において抵抗を強化する（方励という立場で、組合員も主婦会もとらえて、行動を開始した。その中から、これは遺族の問題を支援するということではなく、三川鉱大変災に対する会社側の責任態度に対する闘いでなければならないということに、闘いの質が転嫁した。

この問題は全組合員、全主婦会員の問題として闘争の位置づけを行ない、遺族・被災者主婦会一体となった長期の座り込み態勢を八月二十五日、本部構内で決起大会で意志統一を確立し、現場では生産点において抵抗を強化する（方励スト）の強化へと発展するいから全炭労の闘いへと発展するとともに、これから先、世帯主として、主婦として、ずつしりと肩にかかる重さに、たえて行かねばならない。（写真はアソニット工場）

会社側の態度はどのように変化していったか

座り込み当初、会社の態度は、中央協定で取りきめたことでありても要求には応ぜられない、不法な座り込みは即時解散してほしいゴネ得という感じを持たせるような妥協は絶対に行なわない、という高姿勢でのぞんできた。

このような会社側の高姿勢に対し、私たちは憤激を決意し、奮起すべきは会社幹部に対する抗議行動を開始し、所長の私宅訪問、会社幹部抗議をはじめた。ところが会社は八月二七日、突然座り込み立入禁止の掲示を行ない、本社立関前にはテントを張りはじめた。これに齋藤仁が座り込み団は、ただちに会社幹部に対し集団抗議が開始され、前後三回にわたる抗議行動を起し、ついに山元幹部として本社に伝え善処すると、約束せざるを得なくなった。最終的には社長に面会させるよう努力する、という所長約束を取りつけた。このような山元情勢が中央に反映し、ついに十八日より一切の問題の解決をはかるため中央交渉を行いたい、という炭労申入れとなった。

このように私たちの主体的な闘いが発展するとともに、会社側の態度の変化と併行して変ってきたことを見のがしてはならない。

中央交渉に山元態度がどのように反映したか

山元態勢は座り込みの続行と、方刻スト・時限ストの強化で出炭は思うようにならず、それに輪をかけて栗本前社長外の告訴、福岡地労委の不当労働行為の陳謝命令などがあり、逆に三井鉱山として何とか事態解決にふみ切らざるを得ない立場に追込んだ。その上二〇名の遺族・被災者・主婦会の代表抗議団が上京し、倉田社長ら会社幹部に対する抗議行動等々。当初社長は絶対に会わないといっていたのがついに会わざるを得なくなった。

交渉団の態度

全体態勢の中で炭労交渉団は、山元の総決起の体制に呼応し、不退転の決意で交渉にのぞむための具体的な意志統一を行なった。

交渉はどのように進展したか

第一回の団体交渉における会社回答は、ゼロに近い回答であった。その後小委員会、縮少団交などで各項目ごとに精力的な交渉をしたが、一歩も前進をみるに至らなかった。もちろんこの交渉の中で、おたがいの主張点とその中心がどこにあるかということについては、その後の交渉進展のためには有意義であった。

しかしこれ以上進展しなければ決裂やむなしと決意をして、トップ交渉のそのてはじめに、譲歩の態度がうかがえた。この段階で解決の、対立するか二者択一の態度に会社は追いつめられ、ついに何とかまとめたい、という意志になり、譲れるだけは譲ってもまとめたいという態度に変化し、最終トップ交渉になった。したがってトップ交渉メンバーが、一切の権限を持ってのぞむことになった。

基本的事項の解決

全員採用と賃金補償も私たちの要求に近い考えを認め、未就職者の個々の対策についても結論が出た。また期末手当という名目ではだせないが、現地に起ってくる紛争を解決する意味で名目を変えて、実質的に要求を確保することができた。

また被災者の問題についても、一歩前進した回答を得て、基本事項が了解点に達した。

おわりに

今次妥結内容は、必ずしも十分とは云えないが、私たちの闘争が大幅に入れられた成果を私たちは確認しなければならない。これが現段階における力関係の中から引出された結論であることを理解し、成果は成果として認め、不十分な点はさらに団結を強めて、今後強硬要求の立場で長期に抵抗し闘いを解決上げて、権利と生活を守ることに徹する以外にない。

全三池運搬・機械組長交流会議

五人組をたたかいの基礎に

九月二七日、延命会館に於て、運搬、常一番機械、三交整機械の三会場に分れて全三池運搬長交流会議が行われた。全三池の坑種別組長交流会議は、組合運動が経験主義に陥いらないため、日常坑場における大衆の斗いの中の運動発展の法則を見い出し役立てる目的で始められた。第一回提案、第二回掘進の交流会議を経た今回は、前回までの長所欠陥を検討し「坑場の悩み」「その克服する方法」の問題提起をし、あらゆる角度から自由に討議を深めて成功であった。

坑場の実態

各支部とも一番問題になっているのは差別問題である。

①会社幹部において三池労組の位置は常に下位ランクを占めているので、坑制に対する不満は強い

②六・八「本来作業から雑作業へのハネ出し」この問題は必ずしも三交部一ようでなく複雑である。

③好条件個所は第二組優先、悪条件個所は三池労組とのこの点は三支部共通している。

④特に機械関係は請負給への移行がひどく、三〇万トン下期予算出炭赤字の取り戻し政策として強制されているなど。

運動上の悩み

第一に、抵抗しなければ災害から生命を守ることも、労働条件引下げも阻止できないことが、判っているようで判っていない。どうしたら徹底できるか。

第二は会議では決ってもなかなか実行されないなどが討議され、次のような意見が出た。

『自分の坑場では何回も論議した結果「ハネ出し」を受けて立とうと決意することが出た。決定した数日後みんなの意見としては「精神的には非常に楽になった」と、そのせいか坑場でみんな明るくなったなどの報告に会場全員がうなづいた。

『三山交流会議の前日に全体会議を特別に開き「報告すること」「質問したいこと」「討議してもらいたいこと」を集約してきた」と熱心な心構えに各組長さんはノートをとっていた。

ある組長さんは『今日の交流で自分のところは確かに遅れていた明日から努力して追いつきます』と恥ずかしがりキッな態度で決意をのべていた。

以上のような今や全山組長交流会議の重要性が大衆のものへと発展しつつある。このことは後手測される石炭輸のきびしさを克服するためにも、また反動化する政治情勢に対決するためにも、三池労組が斗いに確信と展望をもつ立派な土壌となることがいよいよ期待されるところである。

座間町会議員に当選した三池出身の佐藤さん

三池三川交部離坑者の佐藤繁夫さんは、座間町議会議員選挙に立候補し、見事四位で当選した。次はそのとおりである。

※　※

拝啓

同志三池の仲つ仲間の皆さん、主婦会の皆さん、三池を離れて三年の才月が流れました。併し心のつながりと行動は止まることなく前進しています。

この度の座間町議会議員選挙に当り、心からなるご推薦を賜わり且つ多大のカ添ぬまで頂戴し本当にお礼さまにて高位で当選することが出来ました。

共産党の正面攻撃、公明会の裏面作戦に会いましたが「炭労魂」いまだ消えず待に主婦の皆さんの強力な支援が成果を挙げた要素でした。

選挙戦を通じて訴えたことは「当選が目的ではない」ということでした。部落推薦の形式をふんでも是正し真に町民の代弁者となり得るよう人を選んでください」と呼びかけました。事業団宿舎の投票率は九〇％を越え、座間町全体の八三％を上回り、座間町民に炭鉱離坑者の結束の強さを示すことが出来ました。百名の中学生、二百余名の小学生も「会長さんが当選した」と祝福して呉れました。

長寿会の皆さんのご声援も非常に強いものでした。

選挙責任者の河部祐一氏（北海道・明治出身）は別紙中、会社を休んで重責を果して呉れました。

亜由に直接当つた方々のご協力が自治会全体の原動力となりました。一座間町の民花は事業団宿舎からこ一といった気特があふれている状況です。

三池の皆さん、主婦会の皆さんお互に苦しいとの連続ですが、なにものにもあえがたい「心」のつながり、目常活動を通じての交流で理解を深めつつ永い永い将来展望に立って一歩一歩踏みしめて前進しようではございませんか。心からお礼申し上げると共に必ず責任を果すことをお約束致します。

昭和三十九年九月二十二日

神奈川県鶴巻郡座間町栗原
事業団宿舎三ノ四〇八
佐藤　繁夫

三池炭鉱労働組合
三池主婦会　御一同様

負傷者、零の運動

安全なくして労働なし！

（9月13日―26日負傷調）

組織＼日	(13) 第二	(13) 他	14 第二	14 他	15 第二	15 他	16 第二	16 他	17 第二	17 他	18 第二	18 他	19 第二	19 他	(20) 第二	(20) 他	21 第二	21 他	22 第二	22 他	23 第二	23 他	24 第二	24 他	25 第二	25 他	26 第二	26 他	計 第二	計 他
宮浦	0	0	0	3	0	3	2	4	1	3	2	6	1	1	0	1	1	2	1	2	0	2	3	7	0	0	0	1	13	32
四山	0	1	2	4	3	7	4	3	2	1	0	1	1	6	2	4	1	3	2	5	1	6	3	7	7	10	0	6	24	55
三川	0	1	2	4	3	5	1	1	1	8	2	9	2	4	1	5	0	0	0	2	2	1	0	5	0	5	0	6	13	51
計	0	2	7	6	7	12	5	13	3	13	4	10	4	10	2	0	2	6	5	7	1	13	4	14	7	16	1	11	50	125

1、上記期間中各支部の負傷者零の日（除く日曜）

宮浦　3日
四山　2日
三川　4日

2、13日三川の1名は公休日出炭の犠牲者

産業の儲けは市民の首をしめる

新産都市の内幕（5）

政治局　蓮尾信次郎

農民、商工業者もよくはならない

新産都市が労働者にもたらすものは、失業と配転、労働強化などの合理化である。農民にたいする亜鉛都市計画は「帯状」しい筑後玉名の農業地帯にオレンジとミルクの猛烈な導入による近代的な商業的農業の展開をはかる」とうたっている。その根底となっているのは工業と農業の地域格差の是正である。だが最近一〇年間の統計は工業の平均一七％成長にたいし農業は二・三％である。

全国の農家減は一・二％、大牟田は一・六・四％（いずれも昭和三〇年～三五年）である。また大牟田の農民一戸当の平均所得は一六・二、三四七円（昭和三〇年）である。これでは、農業はバカらしい。つまり池田内閣の政策は離農（間接首切り）を促進し、工鉱業の発展をはかろうとするものである。この政策が続く限り、本質的に農民はよくならない。

商工業者はどうなる

構想ではまハッキリしていない。だが中小企業団地、既存の鉄工所など工業団成しようという抽象論がちらほらと出ている。

「大牟田には中小企業がない」という言葉がある。これは三井が中間製品をつくっても、大牟田で完成品をつくらないからである。まで部品その他の資材を地元からあまり購入しないからである。市内中小企業の筆頭ともいうべき山口、片山鉄工所の受注は、三井以外が大部分（橋梁関係）だといわれる。

しかも商工業者に対する大企業などの支払いは「支払い遅延防止法」によって、一年〇日以上は遅らせてはならないという規定があるにもかかわらず、合風手形（二〇〇日）が出ているという。

建設業は若干うるおうが、味のある仕事は大手メーカーがとる。それでも、まわりまわって商人をうるおすが、そこには「第三の黒船」といわれる流通革命（スーパー）が待っている。新産都市で利益をうげる商工業者はごく一部ということになる。

関連産業と市民

荒尾、大島地先に七〇門のコークス炉新設について、三井化学の社長は同労組幹部に「鉱山が先走って困る」といったそうである。当初計画の四分の一で、従業員数も一〇〇名前後（臨時を含む）の工場新設でこの数である。三化の社長はコークス製造過程で、発生するガスの処理（一部を自家消費、大部分を原料などに売る）に完全な見通しが立っていないので、鉱山の発表をにがにがしく思ったのであろう。

工場などの生産額がふえても、市の発展に直結しないことは今までも書いてきた。ここでさらに実証的に強調します。

三池炭鉱公出炭は、S三十一年で二百十八万六千トン。三十八年三百五十六万九千トン（計画は四六五万トン）組合総会資料）結果は失業を増大させている。

三井化学はS三十五年の出荷額は一七四億四千万円。三十八年三三九億六千万円。三十九年の見込みは三九〇億円となっている。

S煉＝S三十年鉛生産高（全製品の九〇％前後を占める）は三万三千五百トン。三十五年は五万五千五百トン。三十九年下期の見込み三万トンだから、三十九年度一年で六万トンを上まわるであろう。亜鉛の生産コストはトン当り七万円くらいで、販売価格は十五万円をこえているといわれる。三十九年で亜鉛だけで五〇億円近くもうけると推定される。

東庄＝三五年七億五千万円三十八年は六億七千万円と、出荷額は下っている。これは硫安価格の引下げが主な原因。だがコストは最低一割以上下がっている。株主配当もずっと八分程度行なっている。市に納める法人税割は、三年くらい輸出振興制措置でただ。

この外に電化、その他があるがいずれも出荷額は数年増えているこれで大牟田市はよくなっただろうか。「ノー」。企業がもうけたとき、その割合に応じて納める市民税を「法人税割」という。これによると法人（三井）の昭和三十五年は六一一四五万円。＝法人（）は中小法人＝（二千五四七万円）。三十八年三、八五一万円（四一〇二一万円）と中小企業が逆大している。

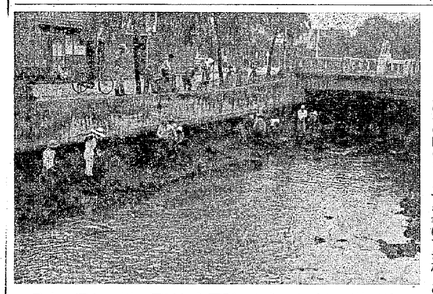
参考のため鉱、三化、化学五社の労働者の源泉徴収による市民税は、S三十五年一億八千五二一万円。三十九年一億七千七七四万円。三十八年一億五千七五一万円である。

これらは三井がもうけた一億、三倍にふやしても市の発展になるより、悪くしていることを示している。生証人々である。

もうけても大阪、東京付近に工場基地をつくっている。化学工場はこの傾向は止むどころか増加する。これは資本主義経済の冷酷な法則である。三化、東庄などは米国最大の石油会社「エッソ」と合資で来年、大阪の堺に二五〇〇億円くらいで工場を新設する。このため数百人の組合員を出向させる。

大消費地から遠く離れている工場の役割は、主に水力と中間製品くらい。これをそれ消費地付近の工場で完成品にする。

（次号へつづく）



日本一汚ない川。河口から扇形にさらえなければ効果はない。汚染度は支配の一部を表徴してる（写真は大牟田川）

第二次石炭調査団を迎えるに当って

主張

調査団が十月二日三池に迎える日程が組まれている。それも三池労組との面会時間は、約二〇分とされている。いったい二〇分で何を聞き何を調査するというのかその理解に苦しむ。

第一次調査団の答申案は、労働条件や保安を考えない経営の採炭制を基礎としたいわゆるビルド・アンド・スクラップという、一年間の能率五、四〇〇万トンを、人当り三〇トン能率にし、一、二〇〇円コスト・ダウンによる合理化促進の内容であり、いわゆる大な国家資金つぎ込み一方労働者を犠牲にした答申案であった。一般的にはこれを人殺し答申案と呼ばれた。

そして人ごろし調査団が再び来山し、なにを調査しようとしているのか、私たちの持ち時間ではとうてい、いいつくせない数々の意見を持っている。

その中心的な意見は、一口にいって保安優先と労働条件の向上、それに三池の経営をただちに中止させよ、といえる。

すなわち昨年の大変災を今後再びくり返さないための保安確立と、施策の確立と、この大変災による遺族・被災者の生活補償と、治療対策の要求。

また現在の低賃金の打破である。これを言わない限り、炭鉱における労働者の確保はあり得ない。これの改善の要求。

さらに三池における法を無視した不当労働行為の数々を指摘し、たちに差別の中止が無い限り、ありとあらゆる方法で抵抗する決意を表明し伝え、差別と生産は両立しないことを明らかにし、調査団の見解を示す。

以上が調査団にのぞむわれわれの態度であり、その中心は、抗議が主たる内容となる。

立っている位置と方向のちがう調査団に対して期待をかけることは、再び政転闘争の欠陥をくり返すこととなる。

私たちの生活と繁栄は、あくまでも闘いの中から作り、確保することを金貨で認識しよう。

災害対策全国活動者会議
十月五日・七日に、大牟田市民会館で総評主催の災害対策全国活動者会議が開催される。当日は、一、〇〇〇名の参加者が予定されている。三分科会（①労働災害②交通・公害③坑業病・労災保障）各坑場・地域の実態、保安対策、闘争状況を交流し、今後の闘争計画とその方向をあきらかにし、最終目の七日は、集会参加者を三班に分け、三池労組・日炭不良・興人八代の各労組を激励、交流する。

なお、この集会に出席する総評事務局長芦井忠氏ら、社会問題研究所の衣笠哲生氏をよんで、社会主義協会大牟田・福岡支部主催で十月五日午後五時より、大牟田市民会館で「反戦・平和・労働運動」大講演会が行なわれる。